

平成 23 年 度  
事 業 報 告 書

自 平成 23 年 4 月 1 日

至 平成 24 年 3 月 31 日

平成 24 年 5 月 27 日

財団法人 日 本 学 協 会

(東京都杉並区高円寺北 1 - 1 2 - 1 9)

## 第1 成果の概要

日本および日本人の独自性を明らかにする学としての日本学の研究を行い、その成果の普及を図り、もって学術文化の発展に寄与するために、日本固有の文化や日本人の価値観などを明らかにし、これを将来に継承するための提言を行うことを具体的事業とする本会にとって、昨年の東日本大震災における被災者の言動は、日本人のあるべき姿を示したものであった。本会も雑誌『日本』や講習会などを通じて連帯感や共存共栄などの日本独自の文化と価値観の普及に尽力した。

## 第2 事業の状況

### 1 日本学の総合研究・普及

本事業は、広範かつ多岐にわたる日本学の総合研究を研究者の個人研究、共同研究あるいは研究会を通じて行っている。

#### (1) 研究会

東京における総合研究会は、各地方の代表者を含めて開催しているほか学生対象の古典講読の研究会を実施し、地方（水戸、伊勢、岐阜、大阪、名古屋等）においても地域の特性に応じた定例研究会を行った。

研究者は、評論家や大学等の教授や高校教諭などの本会の研究員をはじめ、本会の趣旨に賛同する研究者との研究交流を行っているが、研究活動の活性化を図るため、新たに専任研究員を7名増員した。研究者と研究題目は「協会創立60周年記念事業実施計画」で指定した。

#### (2) 公開研究会

今年度から、公開研究会として「日本の現代戦史を学ぶ会」（第1回 担当永江太郎）を3月に開催したが、平成24年4月から「先哲に学ぶ会」（担当但野正弘）と隔月に開催する。

#### (3) 研究成果

平成23年度の主な研究活動は、「現代日本思想史の研究」（代表 久野勝弥）と「昭和期における日本外交史の研究」（代表 井星英）であるが、定例研究会を含む多様な研究会を実施したが、前記のとおり新たに公開研究会を開設した。研究成果の論文は、学術誌『藝林』と『日本』に発表した。

現代日本思想史の研究	担当：久野勝弥
昭和期における日本外交の研究	担当：井星英
研究者の学会発表回数：11編	『藝林』発表論文
研究者の論文発表回数：77編	『日本』発表論文
総合研究会及び定例研究会	開催数：35回 参加者：約670名
公開研究会（第1回 日本の現代戦史を学ぶ会）	開催数：1回 参加者：約80名

## 2 日本学に関する講演会・講習会の開催

本事業は、日本学普及のために行っている講演会・藝林会学術研究大会・講習会の事業である。

### (1) 講演会

講演会は、平成14年に「楠公に学ぶ会」を大阪で開催した翌年から、定例講演会として東京と関西で毎年開催している。

平成23年度は、東京講演会をホテルグランドヒル市ヶ谷において、「大丈夫か、我が国の危機管理体制」と題して開催（講師 帝京大学教授志方俊之。要旨は『日本』第62巻第4号に掲載）、大阪講演会は国民会館において、「メドベージェフの対日攻勢－その理由と日本の対抗策－」と題して開催（講師 北海道大学名誉教授木村汎 要旨は『日本』第61巻第11号に掲載）した。

### (2) 藝林会学術研究大会

藝林会学術研究大会は、毎年テーマを設けて開催し、記念講演、研究発表および現地見学を行っている。

平成23年度は、大阪（天王寺 夕陽ヶ丘予備校）において、「聖徳太子をめぐる諸問題」を主題に、研究発表と相互討論を実施し、現地見学は「四天王寺太子殿」を研修した。（発表論文等は『藝林』第61巻第1号に掲載）

### (3) 講習会

講習会は、日本学を高校生や大学生、社会人などの青少年に普及するために、毎年二泊三日の合宿形式で実施している。内容は大学教授や評論家など各界の専門家による講義、講話を中心に参加者による相互討議や意見交換を通じて、日本の歴史や先哲についての理解を深めるようきめ細かな指導に努めている。

平成23年度も、「歴史に学び日本人の心と生き方を考える」をテーマに、奈良と大阪で実施した。

### (4) 研究成果

定例講演会(東京、関西)	参加者：約240名
藝林会学術研究大会	参加者：約150名
講習会	参加者：85名

### (5) 広報活動

定例講演会、講習会、藝林会学術研究大会の開催は、その都度新聞（産経新聞）および月刊誌（正論）で、会員以外にも広く参加を呼びかける広告を実施した。

## 3 日本学に関する雑誌・図書の刊行

本事業は、日本学に関する研究成果の発表並びに普及を図るため、学術誌『藝林』と雑誌『日本』を発行するとともに日本学に関する図書の刊行および出版助成等を行うものである。

(1) 学術誌『藝林』の編集・刊行

『藝林』は、「国民の道義を高揚し日本文化を向上させるため、真摯で自由な学問的研究を行うこと」を目的に設立された藝林会の学術誌である。歴史・文学・思想などの人文系学問の研究成果を発表する場として、会員のみならず広く一般から寄稿された論文を掲載している。平成23年度は、第60巻第1・2号を刊行した。

(2) 機関誌『日本』の編集・刊行

『日本』は、日本学を普及するために一般向けに刊行している月刊誌である。執筆者は、評論家、大学教授をはじめ各界の専門家、有識者等で、内容は政治、経済、歴史、文学など幅広い分野にわたっているが、投稿も掲載している。平成23年度は、第61巻第5号～62巻第4号を刊行した。

販売・頒布は、定期購読者以外にも、講演会・講習会や公開研究会で実施しているほか、有識者への寄贈や学生には購読料を半額とするなど普及に努めている、

(3) 図書の刊行

図書は、『平泉澄著作集』の電子化刊行の研究と準備を実施して、一部のサンプル印刷を実施した。

(4) 研究成果発表関係刊行物

ア 定期刊行物

名 称	頁 数	発 行 部 数	備 考
藝 林	192 頁	400 部	年 2 回刊行
日 本	50 頁	1,200 部	年 1 2 回刊行

イ 参 考 (過去5年間の主な刊行物)

名 称	頁 数	発 行 部 数	備 考
主力艦隊シンガポールへ	266 頁	2,000 部	平成20年度出版
山 彦	253 頁	5,000 部	平成20年度出版
『日本』総目次(稿)	309 頁	100 部	平成21年度出版
『桃李・日本』総目録	315 頁	200 部	平成22年度出版

(5) 広報活動

『藝林』と『日本』の発行は、年に4回新聞広告(産経新聞)を行った。